

両市で連携して取り組む具体的な施策

大牟田・荒尾地域公共交通活性化合同協議会

平成30年2月23日

連携事業① 「地域間移動を支える移動手段の充実」

大牟田市：事業8「現状の鉄道と路線バスの運行本数の維持」「地域間移動の拡充検討」

荒尾市：2-①-②「市外商業施設等へのアクセス強化検討」

1. 背景・課題など

両市は、生活圏・経済圏を一体としており、通勤・通学をはじめ、買い物や娯楽などの目的においても、両市間の移動が多く見られている。特に、荒尾市に居住する高校生においては、休日の外出目的地として「イオンモール大牟田」を訪れる人が突出している状況である。「イオンモール大牟田」へのアクセスとしては、大牟田駅を起点に運行する路線バス(イオンモール線)のみとなっており、どちらの市からも大牟田駅での乗換えが必要となっている(参考資料1を参照)。特に荒尾市内からの移動においては2～3回の乗継ぎが必要となるなど利便性の低下が懸念されることである。

2. 事業の概要

現在の公共交通体系を維持しつつ、両市間のアクセスについて利便性を高めるとともに、大型商業施設等へ直接乗り入れる路線バスの運行については、利用の見込みや費用対効果、運行主体、他の商業施設への影響など、両市とも明らかにすべき課題が多くあることから、継続して検討を進める。

3. 実施主体

交通事業者、大牟田市、荒尾市

4. 実施スケジュール

平成30年度：検討 平成31年度：方針決定

連携事業② 「両市連携した利用促進の実施」

大牟田市：事業10「周辺市町と連携した公共交通利用促進」

荒尾市：2-③-②「FMたんとなどを活用した情報発信の実施」

1. 背景・課題など

公共交通の利用促進を図るため、それぞれの市において各種事業を実施しているが、情報発信がそれぞれの市域内にとどまっているため、生活圏・経済圏を一体的に捉えた広域的な情報発信を行う必要がある。両市が共通して活用できる広報ツールとして、コミュニティFMである「FMたんと」があることから、積極的に活用することで、成果を高めることが期待される。

- 大牟田市：利用促進チラシの配付、小学生へのバス教室の開催、観光施設へのバスアクセスマップの配布 など
- 荒尾市：利用促進チラシの配付、路線バス乗り方教室の開催、広報紙への特集記事の掲載、市HPの充実 など

2. 事業の概要

「FMたんと」に出演し、両市における公共交通の概要等を紹介し、認知度を高めるとともに、リスナー参加型のイベントなど、利用促進に繋がるような事業を検討・実施する。また、両市からの利用が多い大型商業施設等でチラシなどを配布する。

3. 実施主体

交通事業者、大牟田市、荒尾市

4. 実施スケジュール

平成30年度：検討・順次実施



連携事業③ 「世界遺産関連施設を周遊する移動手段の確保」

大牟田市：事業3「観光施設群や交通施設を結ぶ周遊交通の導入の検討・実施」
事業3「公共交通での観光施設アクセスの案内充実の検討・実施」

荒尾市：2-②-①「周遊観光に対応した移動手段の確保」

1. 背景・課題など

万田坑や宮原坑をはじめ、石炭産業科学館などの世界遺産関連施設が両市にまたがって存在しており、それぞれの施設にアクセスする路線バスは運行しているものの、各施設を周遊する際の移動手段としては、便数などが限られており、利便性が高くない。

【観光移動での公共交通へのニーズ（両市で実施した調査結果より）】

- ・「大牟田市と近隣市町の観光地を周遊する路線バスの運行」に対するものが高くなっている（大牟田市計画）
- ・「観光地へのアクセス性の改善（施設への乗り入れ）」に対するものが高くなっている（荒尾市計画）
- ・公共交通利用者においては「荒尾市と大牟田市の観光地を周遊する路線バスの運行」に対する要望が非利用者に比べて特になくなっている（荒尾市計画）

【週末のみ運行した周遊バスの利用実績(H27.9～10)】

荒尾駅～万田坑～三池港～大牟田駅～石炭産業科学館～宮原坑：延べ利用者数(乗車人数)4,478人 1便1区間当たり約4.2人

【民間事業者による観光タクシー】

大牟田駅～石炭産業科学館～旧三井港倶楽部～三池港～万田坑～宮原坑～西宮浦記念公園：4時間14,000円（ほか、短縮コースあり）

➤ ニーズに対応したアクセス性の確保と、アクセス情報の発信、企画きっぷなどの利用促進を行うことで、観光施設としての魅力を高めていく必要がある。

2. 事業の概要

観光客数の維持・増加に向け、路線バスや観光タクシーなどの既存の公共交通体系の強化をはじめ、様々なモードを活用し、周遊観光に対応した移動手段を確保するとともに、当該移動手段による観光施設へのアクセス方法の案内を充実させる。

3. 実施主体

交通事業者、大牟田市、荒尾市

4. 実施スケジュール

平成30年度 平成31年度 平成32年度 平成33年度 平成34年度

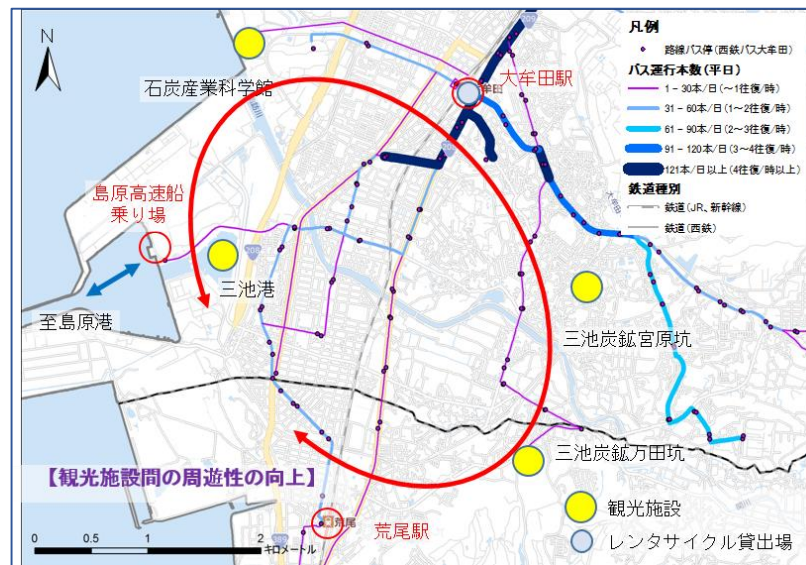
検討

順次実施

5. 論点

- ✓ 観光来訪者のニーズに合った交通モードの導入検討について(実績を踏まえた課題整理)
- ✓ 利用促進のための効果的な情報発信について

〈事業イメージ〉



連携事業④ 「地域間乗継拠点における接続改善と乗継ぎに関する情報発信」

大牟田市：事業8「地域間乗継拠点(倉掛バス停)における接続改善」

荒尾市：2-①-①「乗継拠点における接続の改善」
2-③-①「異なる交通事業者間の乗継ぎに関する情報発信の強化」

1. 背景・課題など

両市は、生活圏・経済圏を一体としており、通勤・通学をはじめ、買い物や娯楽などの目的においても、両市間の移動が多く見られている。移動手段については、若い世代の通勤・通学においては自家用車の利用が多くを占めているが、高齢者等の移動においては、路線バスの利用も一定程度見られており、今後、自動車運転免許の自主返納が進むことを見据えると、両市を繋ぐ公共交通ネットワークを維持・確保する必要が高くなっている。

【両市市民の移動実態（両市で実施した調査結果より）】

- ・大牟田市に居住する65歳以上の市民の市外への移動状況は、福岡市への移動の他、荒尾市への移動が多く見られる（大牟田市計画）
- ・荒尾市に居住する65歳以上の市民の市外への移動状況は、大牟田市を目的地とする方が多く、移動のニーズはあるが既存の公共交通網では行きにくい施設として「ゆめタウン大牟田」などが挙げられている（荒尾市計画）

一方で、JR荒尾駅や倉掛バス停などの接続拠点での路線バスの乗継ぎはあまり見られず、両市においては異なる交通事業者が運行していることから、両市をまたいだ一体的な情報発信や利用促進が不足していることが考えられる（各接続拠点における乗継状況や接続状況については参考資料1を参照）。

➤ 異なる交通事業者間の接続拠点を明確にするとともに、接続の改善と情報発信により、高齢者等が自家用車に頼らず外出ができるよう、日常的な生活動線に対応した公共交通網を確保する必要がある。

2. 事業の概要

両市を運行する路線バスの接続拠点であるJR荒尾駅や倉掛バス停における接続の改善を図る。また、異なる交通事業者間の乗継ぎに関する情報を分かりやすくまとめ、流動が多い商業施設などで配付するとともに、「FMたん」となども活用し、情報発信を強化する。

3. 実施主体

交通事業者、大牟田市、荒尾市

4. 実施スケジュール

平成30年度 → 平成31年度 → 平成32年度 → 平成33年度 → 平成34年度

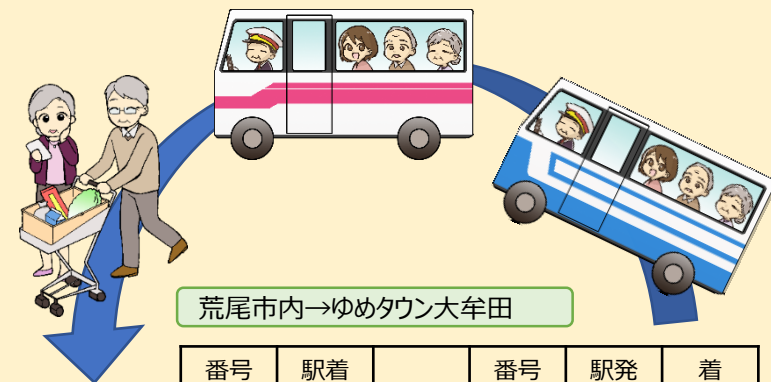
検討・実施

5. 論点

- ✓ 異なる事業者間の接続改善の手法や検討方針について
- ✓ 利用促進のための効果的な情報発信について

〈事業イメージ〉

接続情報（JR荒尾駅）のご案内



荒尾市内→ゆめタウン大牟田

番号	駅着		番号	駅発	着
XX	XX:XX	→	XX	XX:XX	XX:XX
XX	XX:XX	→	XX	XX:XX	XX:XX